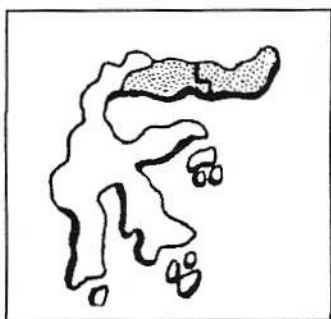




北スラウェシ日本人会
NORTH SULAWESI JAPAN CLUB

日本人会会報

Tarsius

タルシウス

第23号



平成24年8月1日発行.

第23号 目次

1 エチオピアについて(6)	石野 赫	頁 2
2 ハルマヘラ島点描 (画 小名木 二郎)		6
3 ビトゥンの若者の間で流行している日本とは	大貫 周明	24
4 マジュロ島訪問	長崎 節夫	27
5 駐在官事務所便り		31
6 編集後記		36
7 会員名簿		37

エチオピアについて(6)

元 JPC ビトン駐在員
石野 赫

ご無沙汰致しておりますが、北スラウェシの皆様、ご健勝の事と拝察致しております。ビトン港コンテナ埠頭工事完了後帰国し、時が経つのも早いもので8年が過ぎて行きました。

帰国後は、アフリカとの縁がありまして、目下エチオピアとの民間交流の窓口といった仕事に携わっております。

「タルシウス」誌編集長・長崎節夫氏のご厚意で、過去5回にわたり御誌に、エチオピアとはどのような国かを紹介させて頂いて参りましたが、今回は、エチオピアと日本の関わりについて、エピソードを交え簡単に触れさせてもらいたいと存じます。



まず、公的な関係は、1930年両国間で、修好通商条約に署名、1933年には、エチオピアが、大阪に名誉領事を任命したことから始まりました。

その頃から日本では、エチオピアへの関心が高まり始めていたようで、講談社刊「20世紀全記録」に掲載された1931年7月16日付記事には、エチオピアの内情を伝える次のような記事が出る程でした。

「アフリカの角」

『エチオピア皇帝ハイレ・セラシエI世、形だけの「立憲君主」宣言』

皇帝ハイレ・セラシエI世が、エチオピア史上初の憲法を制定した。前年、権力を掌握した皇帝は「2院制議会を設置し、閣僚は議会の決定を遂行する。朕は以後、憲法に従って国を統治する」と宣言した。ニューヨーク・タイムズは「皇帝は自身の自由意思で絶対君主の座から離れた」と賛辞を交えて報じた。しかし、その内容を見ると、議会については「全議員は皇帝の任命制で、議案も皇帝が提出する」というもので、また、行政でも「軍人と役人の任命も、給料の決定もすべて皇帝が行う」など、実質的な王政には変わりなかった。

エチオピアは、日本から距離にして約1万5百 kmも離れ、地球の裏側、アフリカ大陸東部で通称「アフリカの角」にある国ですが、日本と同様、皇帝(日本では「天皇」ですが)を戴く国として親近感を持ったのかも知れません。

更に、1934年1月19日に報道(前記「20世紀全記録」)された、次の記事によりその気持ちは高まっていったのではないのでしょうか。

『「日本女性を花嫁に」、エチオピア王子の求婚、イタリアが妨害』

東京世田谷に住む子爵黒田広志の次女雅子(22)が、エチオピア帝国の王子リジ・アラヤ・アベバ妃の第一候補者に選ばれた。

前年5月、日本女性を花嫁に迎えたい、との王子の希望が東京の弁護士角岡知良に寄せられたことから話が始まり、角岡は100人近い花嫁候補の中から3人を選び、写真と書類をエチオピアへ送っていた。

黒田雅子は、1929年私立関東女学校を卒業。身長5尺3寸(約160cm)、体重14貫300匁(約54kg)、明眸華麗、しかも千葉県旧久留里藩主の後裔と、王子妃の条件を十分に備えていた。(一説によると、彼女自ら積極的に応募したとも言われています。)

このお目出度い「世紀の国際結婚」話は、当時とすれば非常にセンセーショナルなニュースで、連日人々の話題にのぼったようですが、この年の4月日本がエチオピアと親交を結ぶことに反対するイタリアの妨害で、あえなく破綻を迎えることになったそうです。残念な結末ですが、1974年の軍事クーデターにより同年9月、皇帝が廃位に追い込まれ、その後のエチオピア皇室のたどった運命を考えますと複雑な思いが致します。

さて、1936年日本がエチオピアに公使館を開設し、交流も次第に盛んになってきましたが、第二次世界大戦勃発で、国交断絶。大戦後国交を回復したのが、1955年で、同年の9月公使館を再開しました。

その後;

1956年: 皇帝ハイレ・セラシエI世来日

1957年: 日本にエチオピアが公使館開設、日エ友好条約締結

1958年: 両国公使館、大使館に昇格

1960年: 皇太子(今上天皇)ご夫妻、エチオピア訪問

(この他イラン、インド、ネパールをご訪問)

1964年: アベベ・ビキラ・マラソン選手、前回のローマ大会に次いで東京オリン

ピック大会でも優勝(エチオピア・アスリートはマラソン界の
トップクラスへ)

1968年: 日エ貿易協定締結

1970年: 皇帝ハイレ・セラシエI世来日(日本万博開催時賓客)

1971年: 日本海外青年協力隊派遣取決

1974年、経済危機と飢餓の深刻化と共に社会が不安定となり、軍部のクーデターが勃発。これによって皇帝ハイレ・セラシエI世は逮捕され、225代皇帝は退位、帝政は廃止されました(皇帝は翌年没)。現在は、1995年に樹立された「エチオピア連邦民主共和国」のもと、元首ギルマ大統領・二院制議会・メレス首相体制で民主政治が行われています。

エチオピアは、アフリカ大陸54カ国の外交の中心でもあります。1963年「アフリカ統一機構(OAU)」が本部を、首都アジスアベバに置いたことから、日本もこの地を重視していますし、この OAU が内容を充実させ2002年に「アフリカ連合(AU)」として再発足させ、機能を拡大したことから、ますます世界的な重要拠点となって来ています。

また、日本政府が主催して、1993年から5年に一度アフリカ諸国を招いて「アフリカ開発会議(TICAD)」を開いていますが、その関係で AU を中心に、関係者の往来が非常にはげしくなっています。

次に、日本との経済関係ですが、日本の対エチオピア貿易は次の通りです(日本外務省資料による)。

1. 貿易額(2010年)
輸出76.0 億円
輸入39.5 億円
2. 主要品目
輸出自動車、機械類等
輸入コーヒー、原皮等

直接投資は、1951～1974年間で、13件、計 683
1 千ドル、でしたが、1974年以降は実績がないようです。

単純には比較できないのですが、インドネシアと比べますと数字・内容共に雲泥の差があり、驚かれるのではないのでしょうか。

文化交流面では「国際交流基金(JF)」が、エチオピア国内で定期的に、日本紹介を目的とする公演・展示事業を開催していますし、日本国内でも、エチオピア伝統舞踊の公演やコーヒー・セレモニー(日本のお茶会に似ている)の紹介等の支援を受けております。

私の所属する「一般社団法人 日本エチオピア協会」では、1971年の創設以来毎年秋に「エチオピア料理とダンスの夕べ」を開催し、外務省や在日エチオピア大使館の後援を受け、在日エチオピア人と合同でエチオピア料理と踊りを楽しんで頂き、文化・芸術の交流・紹介を行っております。また、講師を招いての関連セミナー、エチオピア語講座、エチオピア舞踊講習、等々、結構盛り沢山の活動をしています。

因みに、協会の設立目的並びに事業活動内容を紹介させて頂き、このレポートを終わることに致します。

(目的)

当協会は、日本とエチオピア国の経済、学術、文化の交流を通じ友好親善に寄与すると共に広く世界平和に貢献することを目的とする。

(事業)

1. 両国間の学術、文化および経済交流の促進
2. 関連講演会、研修会、座談会、展覧会等の開催
3. 両国の学術、文化および経済交流関連団体との協働・後援

4. エチオピア国内における学生に対する奨学金の支給
5. エチオピア国内における学校その他福祉施設への備品等の提供
6. 広報、啓蒙用出版物の発行並びにエチオピア関連学術、文化および経済情報の収集および提供
7. その他協会目的を達成するために必要な事業

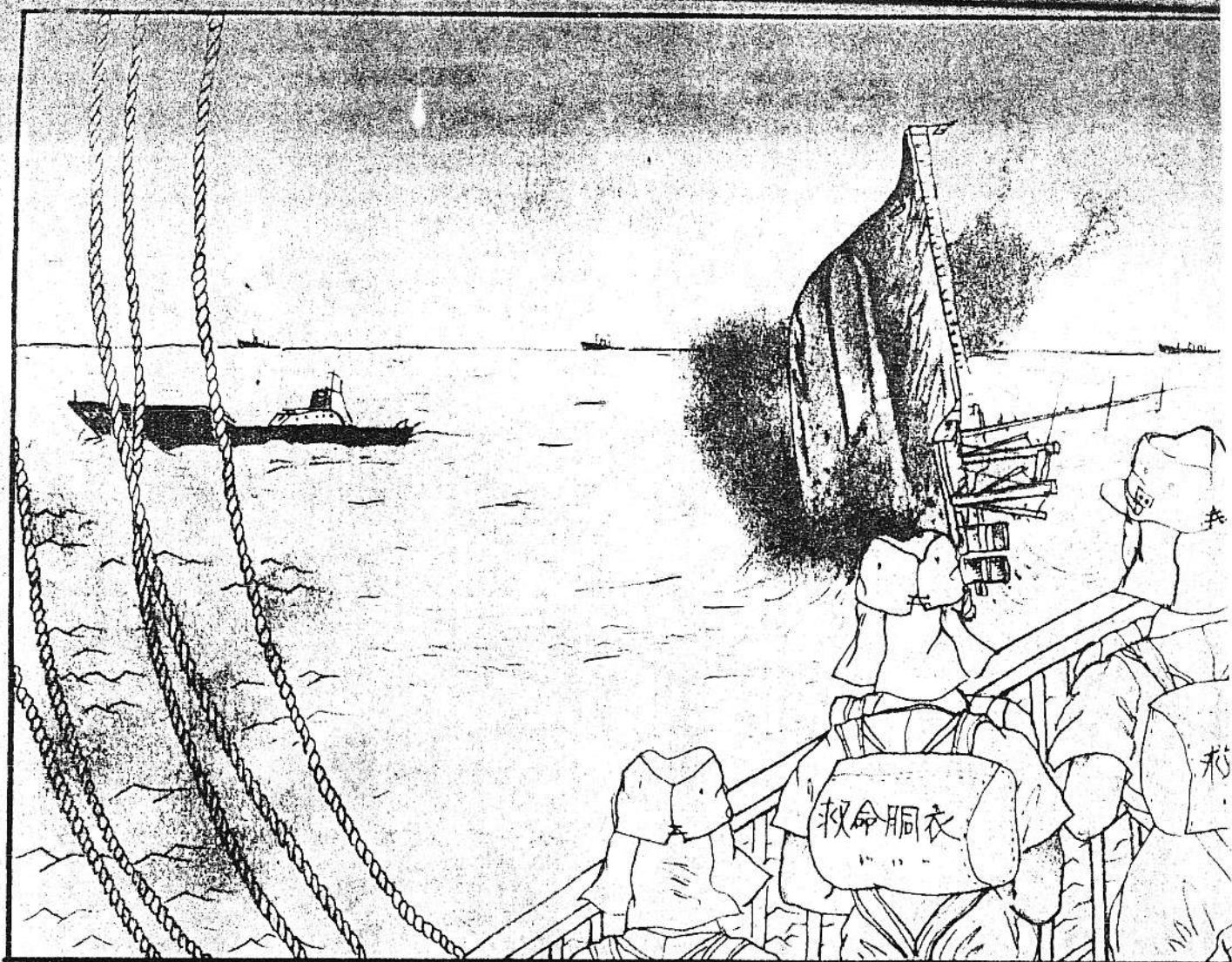
では、次回で、

北支、中支、と南方の思い出

豪北派遣楓 四二五五部隊 第四中隊



図2. 輸送船轟沈



まC

船団敵潜水艦の攻撃を受ける。

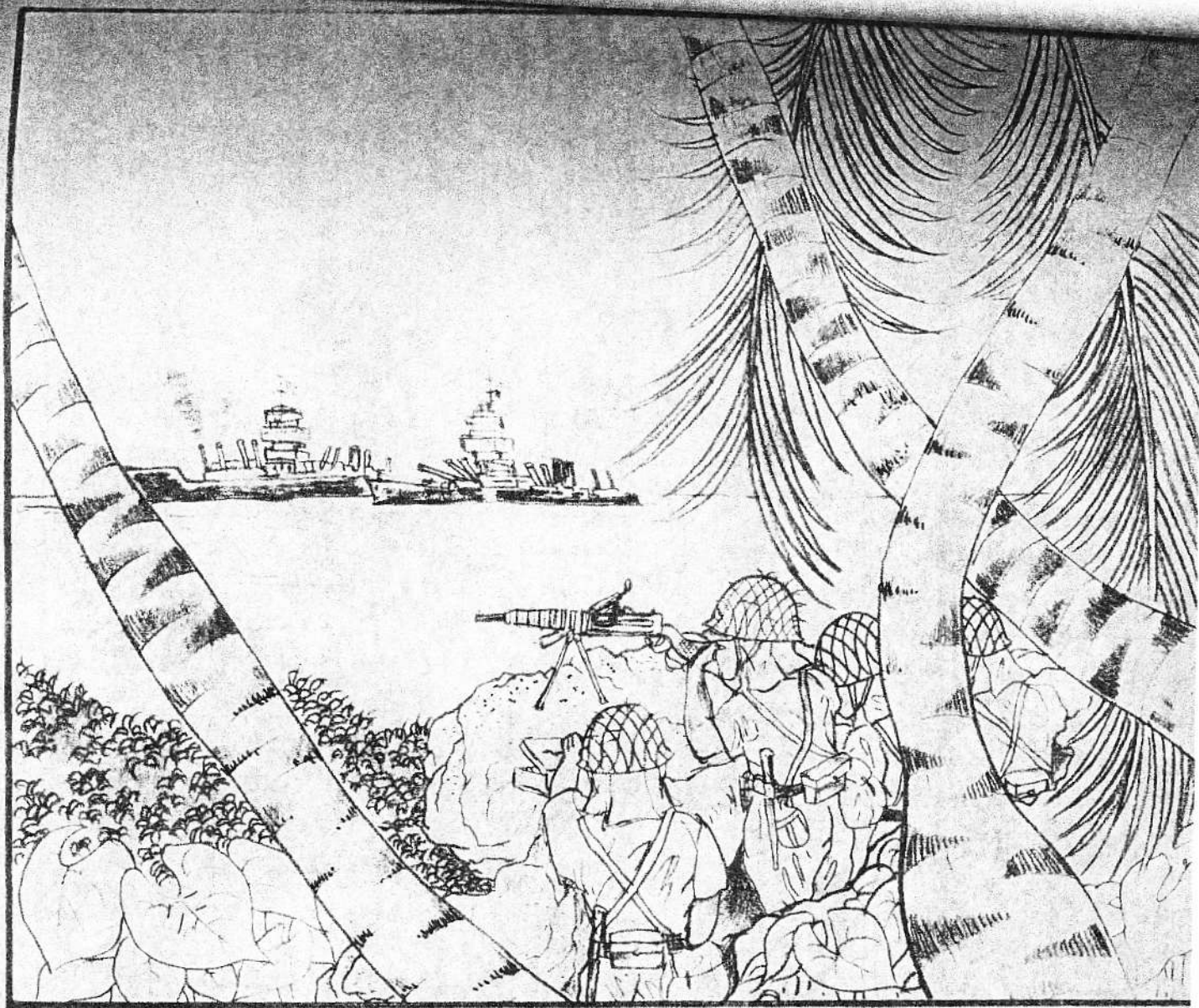
昭和19年4月26日ルソン島西北角西方50哩バーシ海峡附近に於て
敵潜水艦の魚雷攻撃を受けオー吉田丸が轟沈一瞬にして2,700名を失う。

船団再び受難

昭和19年5月6日マニラ出港6日後メナトノ北方海上で再び敵潜水艦の
攻撃を受け、亜丁丸、但馬丸、天津丸が撃沈される轟沈でなく
又昼間攻撃のため乗船部隊3,517名中戦死97名。

← 海軍の護衛艦

図3 艦砲射撃



(Ona)

昭和19年9月15日 ミチ島 東地区守備中敵モロタイ上陸

敵艦2隻 ガレラ、トベロ地区に対し艦砲射撃この間に敵はモロタイ島
ギラ岬、ワヤブラ附近に大船団を進入させ上陸した。

敵の上陸に備え水際に待機、自爆用手榴弾を靴紐で帯革に結んだ。

艦砲射撃朝5時30分より 8時まで、8時丁度に引上げて行った。

やれやれ又助かった。

小隊長小坂少尉 分隊長八木伍長 共にモロタイで戦死された。

図 4. パチャ村



Onezi

S. 19. 10. 11. パチャに移駐 パチャ警備に当る

パチャカンボンの大通り、教会の前に大きなカボックの木があった。
コンクリート造りの井戸は宣教師が造ったのかも知れない。

(インドネシア住民となれなくなった) マサウス、シユレニ、ノセロク。

エノケン(ニウクネーム)今頃どうしているかな。

(エノケンに良く似ているので兵隊が付けしたニウクネーム)

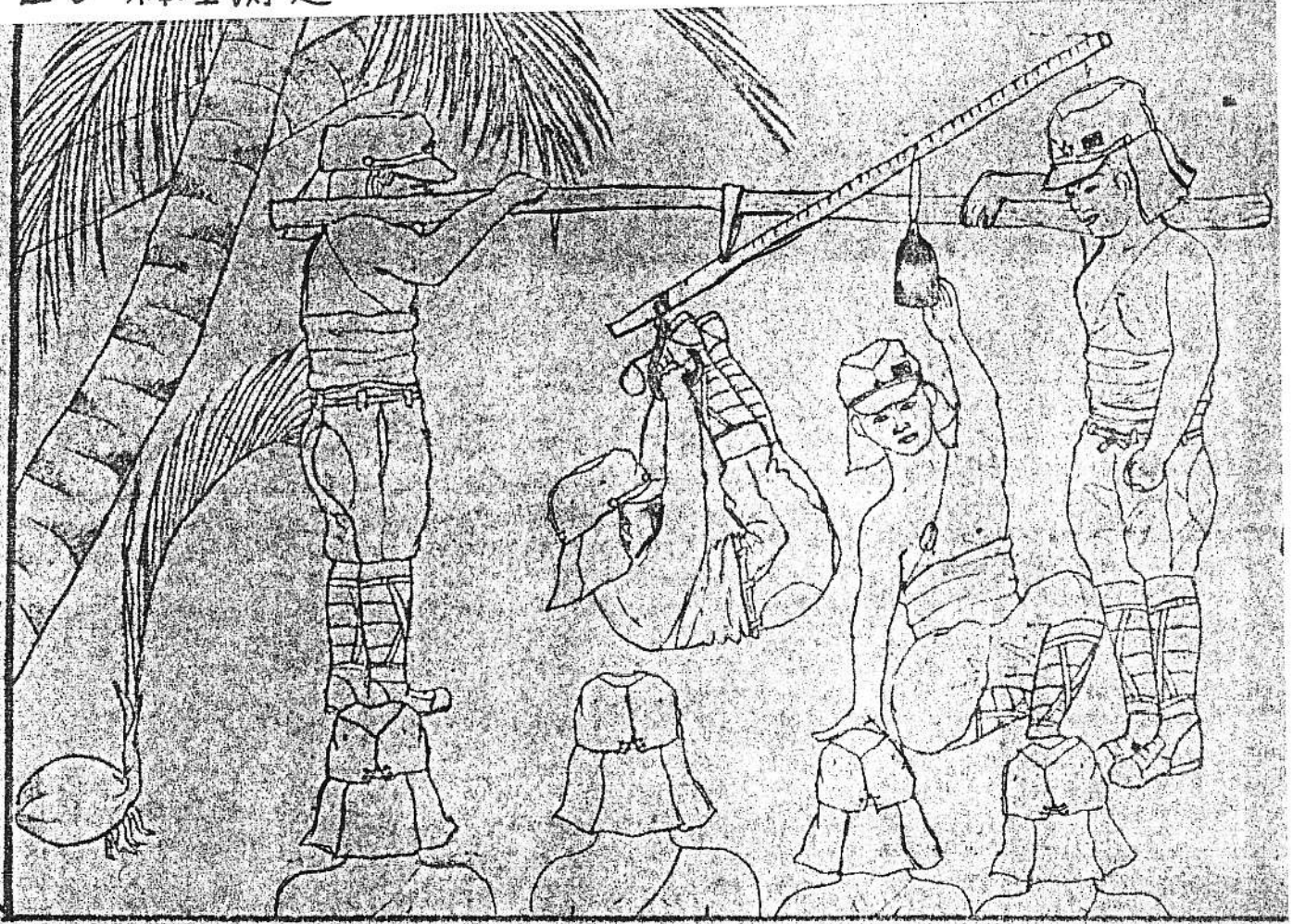
図 5. ハルマヘラ上陸(右). 終戦(左).



昭和20年8月14日 八野戦憲兵隊ガウ憲兵隊トベロ憲兵隊
カタナ分遣隊の終戦のため原隊復帰(四中隊)

昭和20年10月19日 ハルマヘラ島に於て武装解除

図6. 体重測定



体重測定 S. 20年11月 ハルマヘラ島 カラで

野豚の目方を量っているのではない。ぶら下っているのは正しい。大日本帝国の軍人です。戦に破れた兵隊達は皆やせて骨ばかりになっていました。現在80kgある私も当時は40kg以下になりました。ぶら下がる体力のある者は良い方で栄養失調の激しい者は天幕に包んでぶら下げ計りました。

ハイ次ぎ 小名木兵長 10貫800両であります
(当時は天貫法でした。)

図7. カウ. 第四中隊農場及び兵舎配置図



昭和20年10月10日カウに移駐兵舎設置後自給のため
芋畑を作る

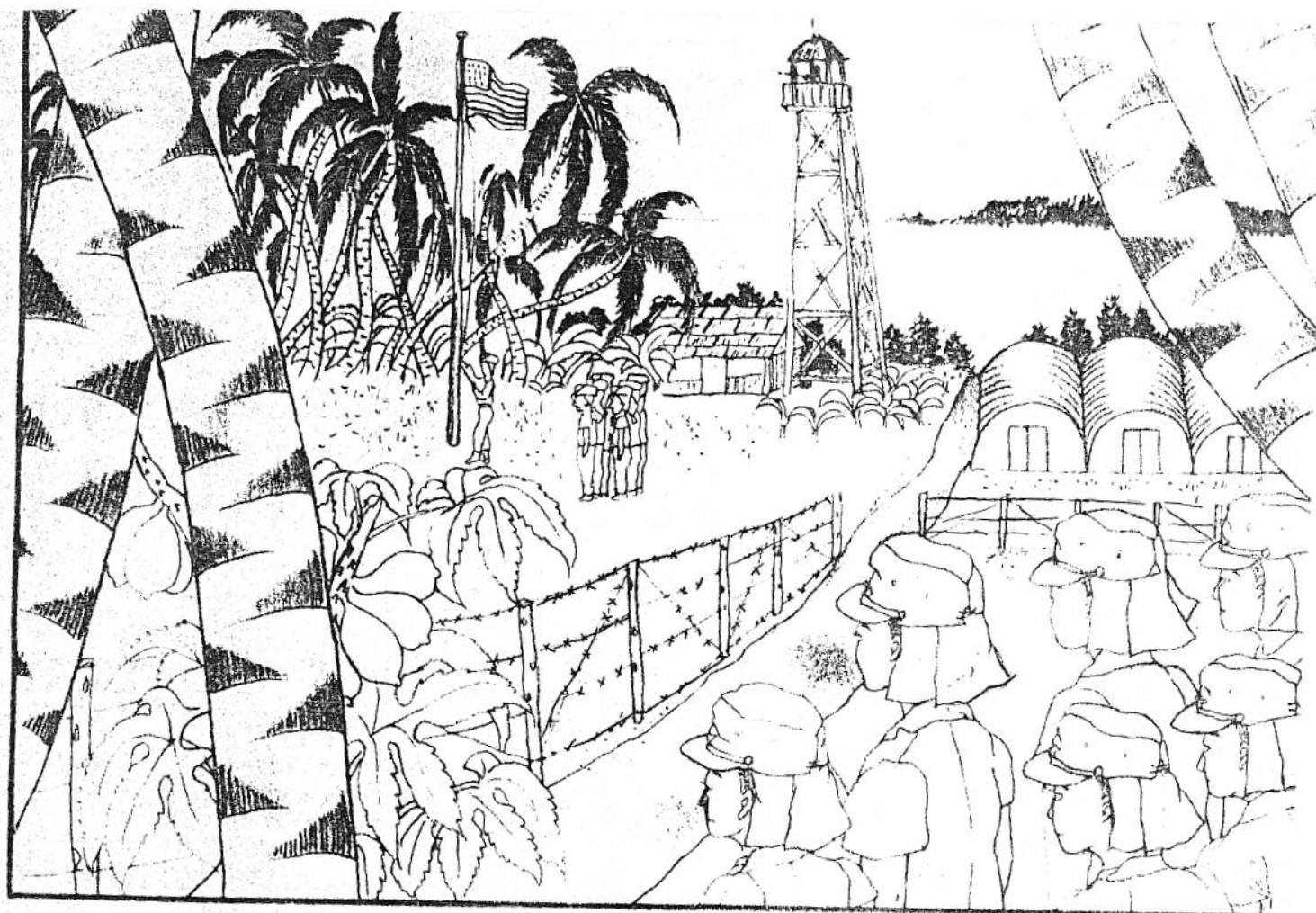
主 Ona



カウ四中隊案内図

昭和21年5月25日ペテワン移駐して約6ヶ月カウ兵舎で暮す

図8. ペテワン収容所

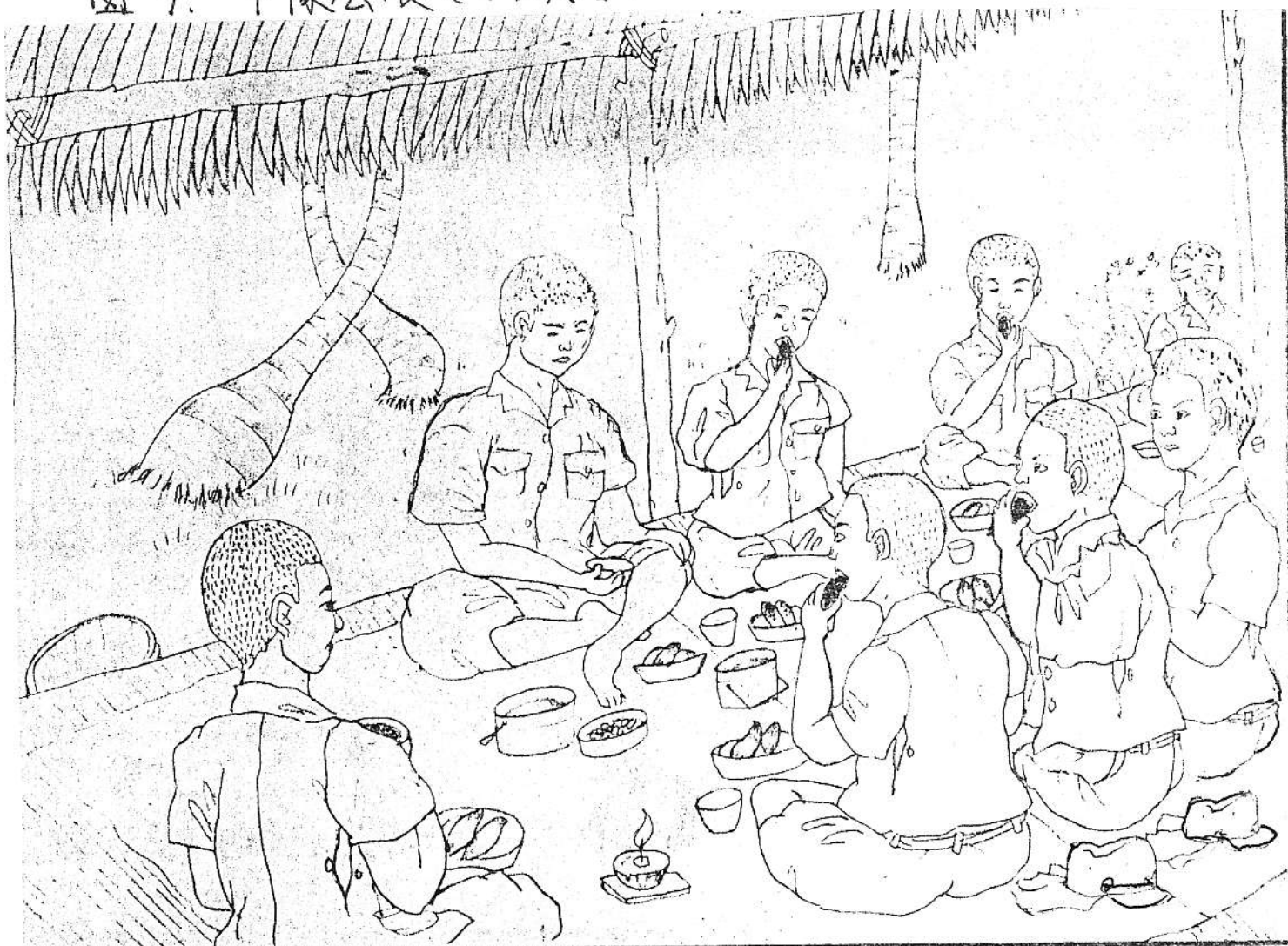


ペテワン 抑留者収容所に前田大尉以下73名残る^よ
 収容所長キヤプテン・リーベルと云う米軍大尉でした。
 戦時中は北海道の収容所で石炭堀をさせられていたそうです。
 日本語がベラベラでその上大変身切な人でした。

抑留者内訳			
一大隊本部	3名	第一戦術銃	7名
一中隊	7名	歩兵砲中隊	7名
二中隊	22名	速射砲中隊	7名
三中隊	1名	通信中隊	7名
四中隊	7名	乗馬小隊	3名
		三大隊本部	1名
		三中隊	1名
		計	73名

二大隊の抑留者はモロタイ島に残された。

図 9. 中隊会食(カウ兵舎)



ささやかな中隊会食

よ。Q.

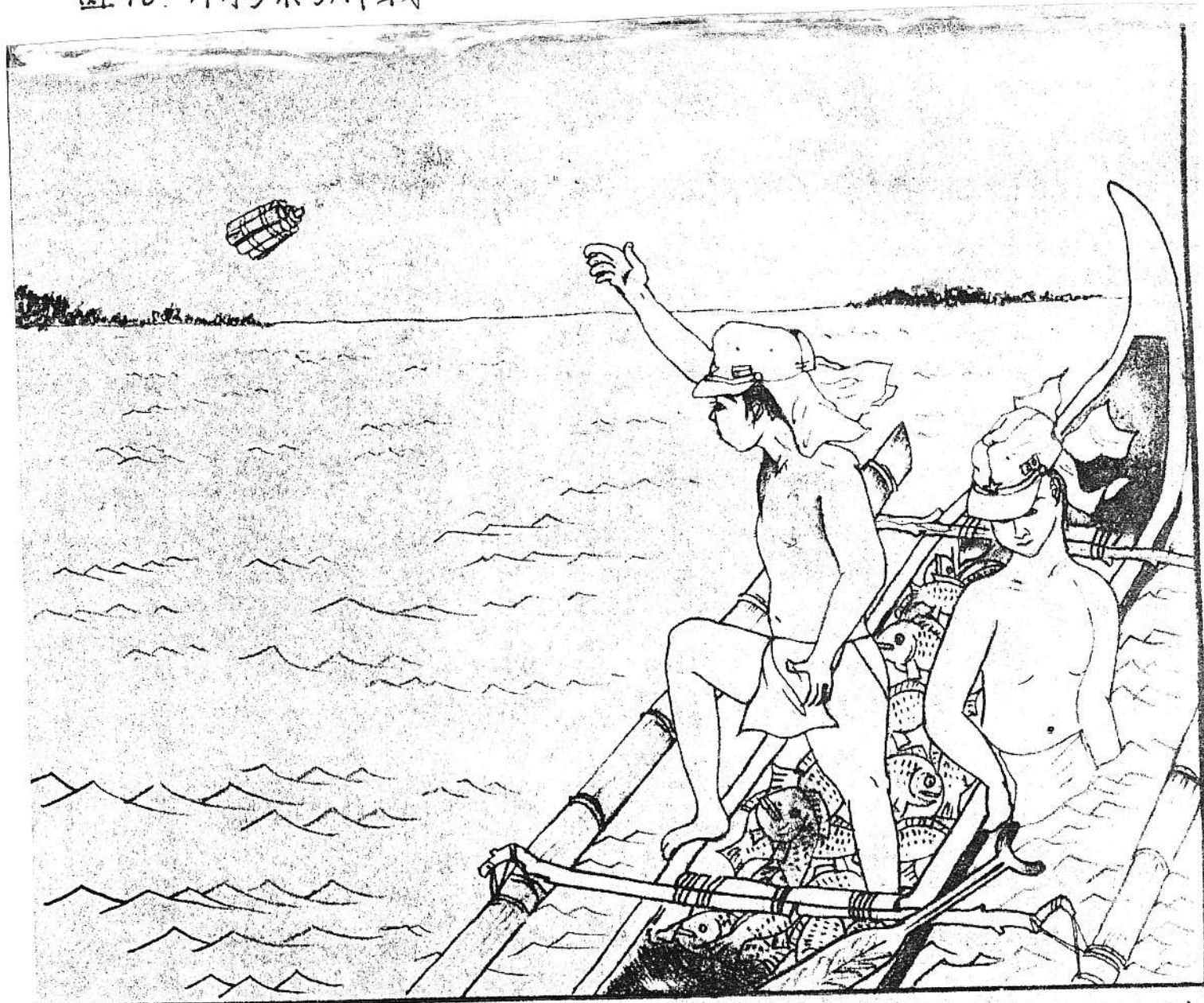
カウ兵舎で10日に一回位たのしい会食

さつま芋(中)3本半
さつまの葉油いため
さつまの葉の塩汁
さつまのくきのおしたし
さつまの天ぷら(マシ油で揚げる)
たまにカラス員が出る

カウ劇場に於て時々演劇あり四中隊より徒歩5分位で行けたと思う
腹時計なのでもあてにならない。時計はヘヤホール上陸の時海水が入って
アビス(終り) 演劇も女装が一番人気があった。

辨当を持って見に行ったと思う。
(さつま芋本)

此のころから生きていて良かったと思う様になった。



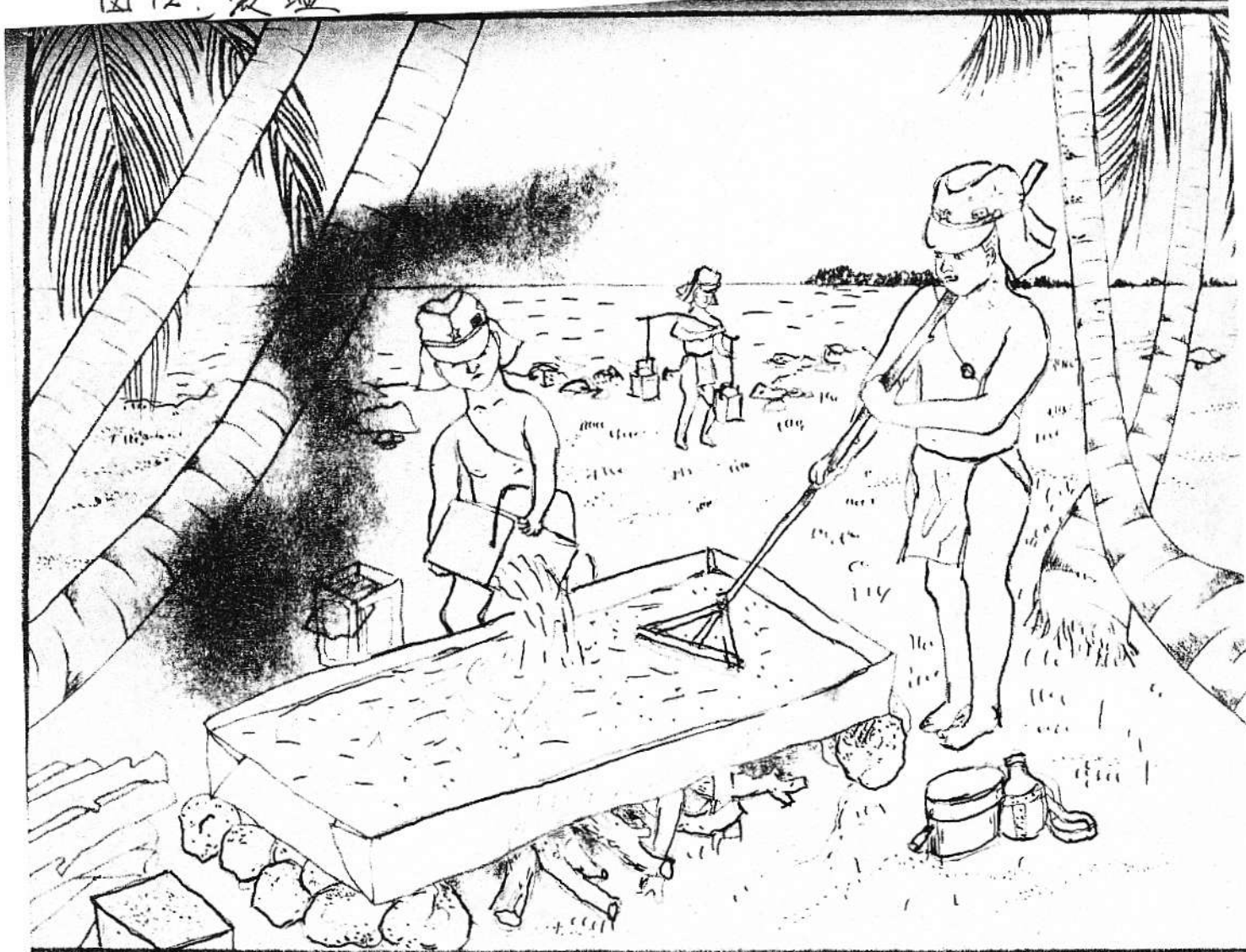
昭和19年12月 パチヤ、マカン作戦のうち「イカンボン」
 マカンとは インドネシア語で喰ると云ふことです。
 イカンとは魚のこと ボンとはダイナマイトの爆発音で ダイナマイトで魚を取る事を
 英隊もインドネシアの住民も イカンボンと云った。 Onaji

仲々スリル満点の作戦でダイナマイトの中に手榴弾が入っている投擲すると
 魚でなく人間が一匹取れる。

南方の魚は油が少なくそのまま焼くと身がバラバラに分解してくずれるので
 全部マシ油で空揚げにして喰べる (イカンゴレン)
サカナを油が揚げたもの

敵機の爆撃が毎日あるのでイカンボンも仲々大変だ。空を見たり海を見たり、

図12. 製塩



マカン作戦のうち製塩

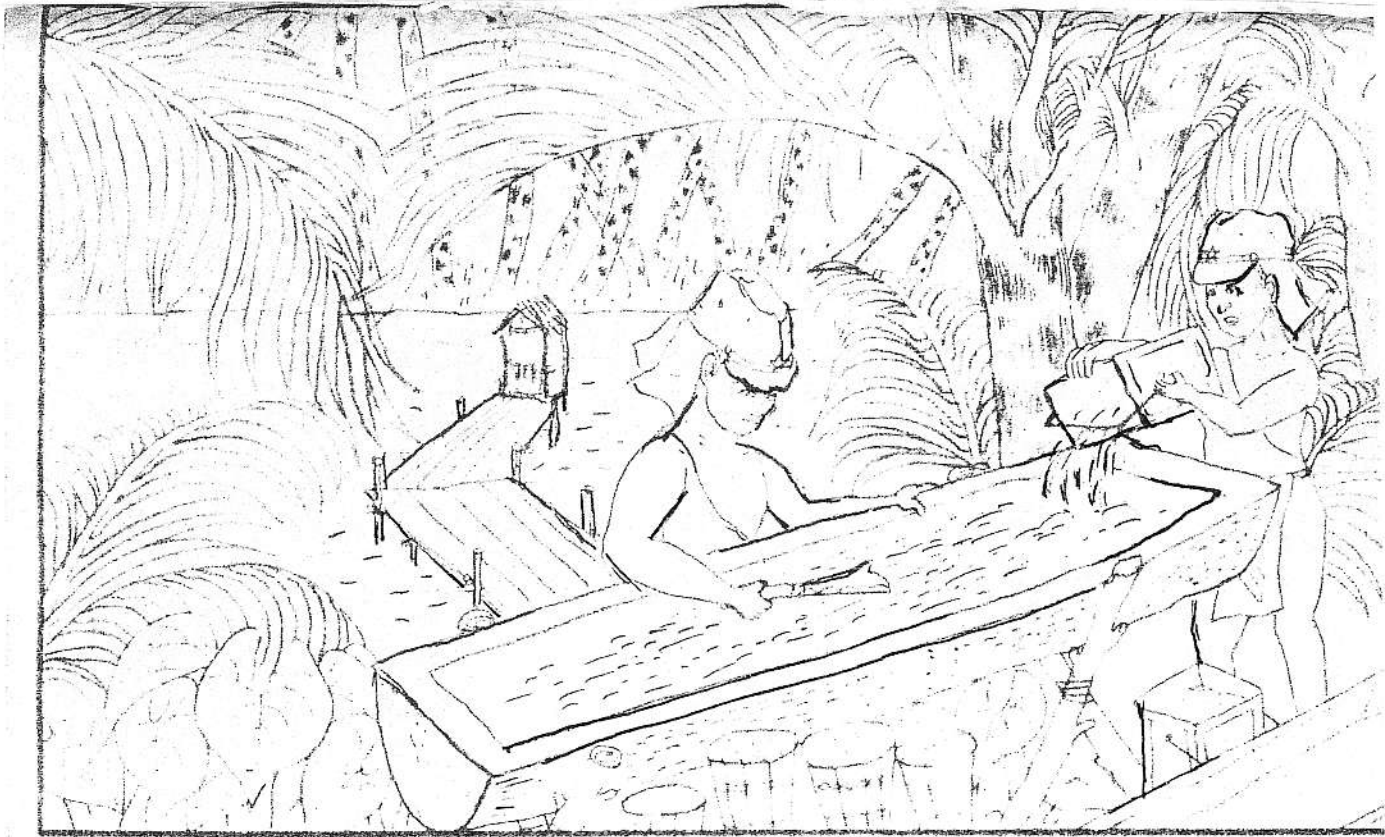
2 Ona gl

昭和19年12月 ランゴランゴ岬警備 中村分隊

対空監視哨 1ヶ所 製塩は内職

昭和20年1月 四中隊主力 モロタイ島に於て玉砕

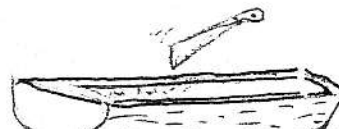
図13. サゴ澱粉造り



マカン作戦のうちサゴヤシ澱粉取り。

サゴ澱粉を取るには水を使うので川に近い所のサゴヤシの木を
根本からサゴヤシの木を切る。それを長さ2m位に車輪切にする。

 ダテに2つに割る。皮は固いが中は柔らかい。

 中の柔らかい所を刃物でゴマカク研ぐ、粉々になる。

 水を入れて良く混ぜる。浮いたカスは捨て
水を入れて何回も繰り返す。

 サゴヤシの木をそのまま水槽に使う (木屑を水槽。使うこともある。

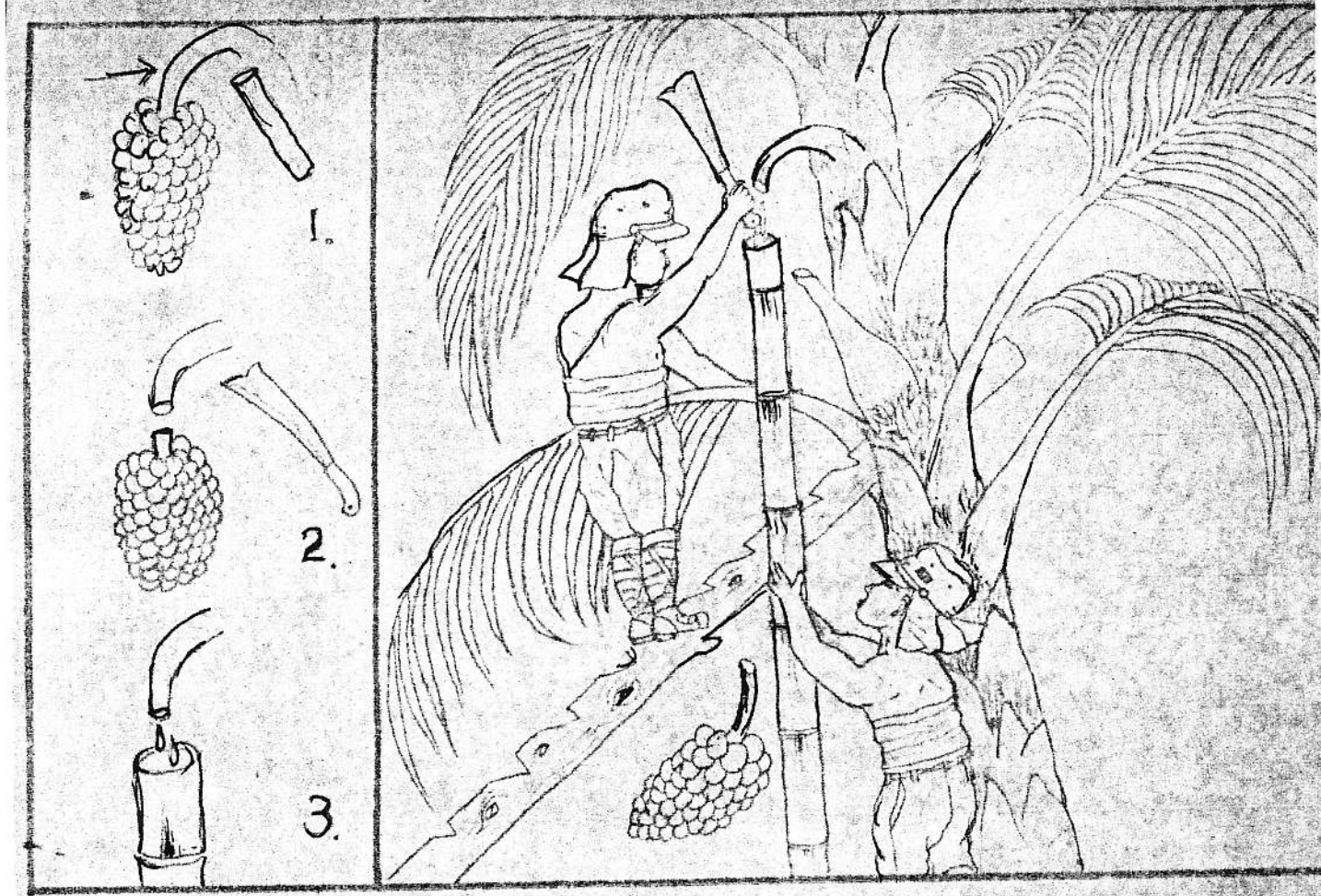
一晩置くと澱粉だけ下に沈殿する

上の水をそっと捨てると澱粉だけ残る

食べ方色々あるが一例

(5) バナナの葉で蓋をする。
(6) 一ヶ所にサゴ澱粉を入れて火で焼く

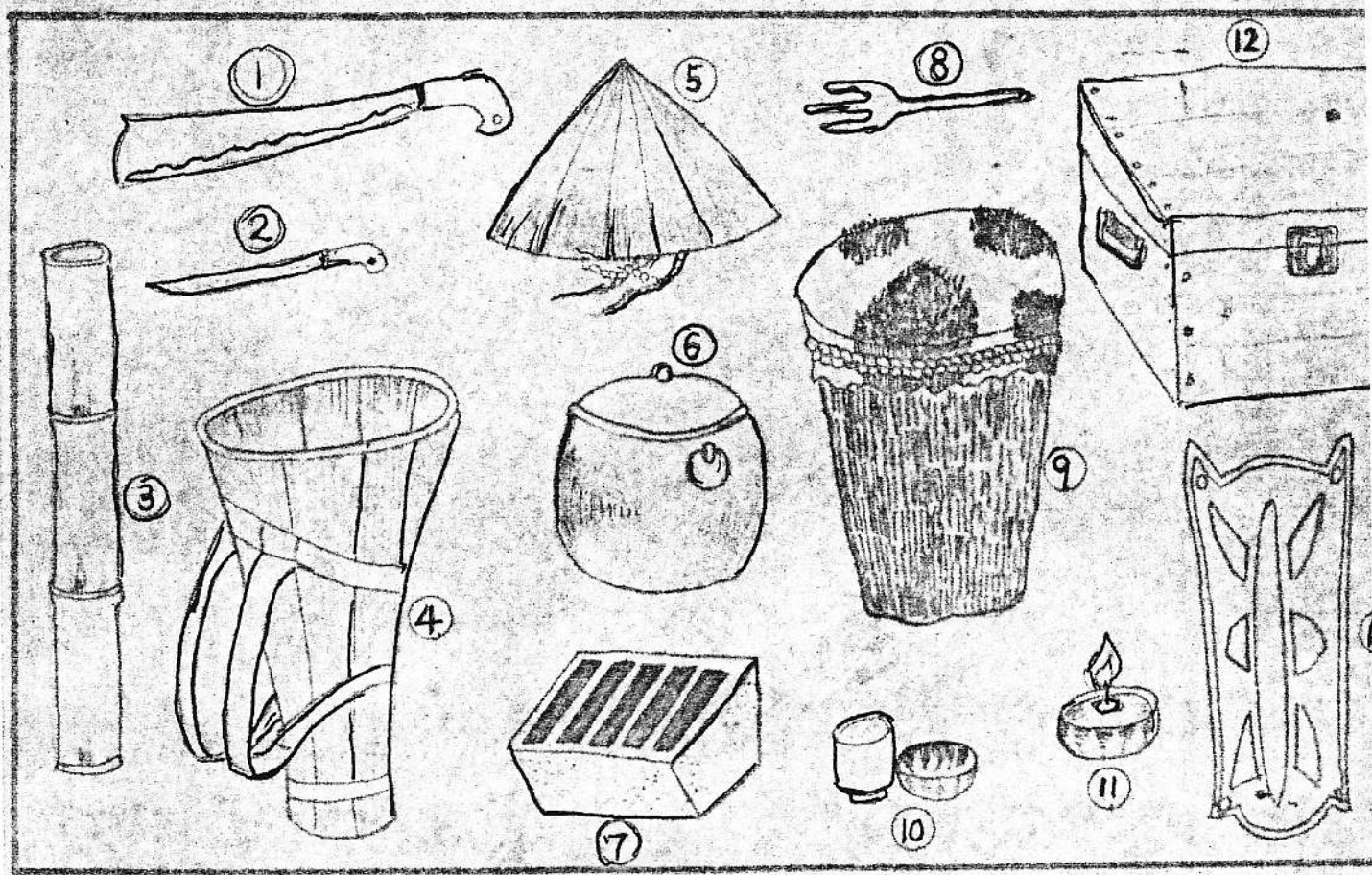
図15. ヤシ酒造り



椰子酒の取り方 ハルマヘラ島ランゴラ

1. サゴ椰子の 実の付け根を一日数回 棒で叩く
これを1週間位待つ ける この叩き方が悪いと酒は出てこない
 2. 実を薙刀で切り落す
 3. 節を抜いた竹筒を下で受けて出て来た汁をためる
一夜で3.6リットル位たまる 味はカルピスの様な味がする
此水をサゴエルと云う、更に一日置くとスの様になっていく
(サゴ椰子酒)
- スの様になったら此を蒸留するとアルコール分45°位の
チュータロウになる。

図 16. 島民の日用品



ハルマヘラ島民の日用品

1. バラン(薙刀) 男が持つて居る。ジャングル生活にはなくてはならない物
2. ピソ (小刀) 女が持つて居る料理や敷物を作る時に使う
3. バツブ (竹) 節をぬいた竹筒。湯を沸したり、草を水を入れないで煮る
4. セオイカゴ(インドネシア語不明) 女子が使う物を運搬するカゴ
5. トツペイ (笠) 日除笠。男女共に使う。木の葉で編んである
6. 金罫 (インドネシア語不明) 日本火消ツボに良く似ている。
7. 名称不明 土の素焼。この中にサゴ澱粉を入れて火で焼いて喰べる。パンの様に澱粉がやける。
8. 名称不明 竹で作る。頭髮をとくすし。兵隊が初めホークと間違えた。
9. ドラム 毛の付いたままの皮が張ってある。
10. マンゴ (コップ) インドネシア語で穴のあいた物。くぼみのある物。
11. 名称不明 明りにマシ油を使う灯し火。
12. " 衣類を入れる木の箱、13. ロンゲに使うタテ。槍もある。

ハルマヘラ点描 (解説)

会員の柴田さんをとおして興味深い絵(コピー)が手にはいりました。絵の作者は小名木さんという旧帝国陸軍の軍人です。絵は小名木さんの出征から北支、中支を経てハルマヘラ島までの兵役中の場面場面を漫画風に描写したものです。おそらく終戦後復員してから描いたものですが、実に綿密・詳細な絵です。一発で当時の実像を示してくれます。「記録」という意味では凡百の文章もかなわないのではないかと。残念なことに柴田さんに届いた絵は不鮮明なコピーが多く、今回はその中の比較的状态のよいものを掲載します。

第2図 輸送船轟沈

海没と飢餓。太平洋戦争で日本軍の戦没者数は、敵と対峙しての戦闘よりも輸送船の沈没や病死、餓死などによる消耗が多かったそうです。その意味で、この絵は太平洋戦争を象徴するような絵のひとつといえます。

この絵を見て思い出したことが二つあります。ひとつは3年前に90歳で亡くなられた青木次郎師です。青木さんがタルシウスに寄稿された文章にもセレベス海での遭難のことがありました。青木さん陸軍軍人としてハルマヘラ島へ運ばれる途中にメド沖で遭難し、一昼夜半泳いだ後に救助されてメドに上陸、そのまま終戦まで北セレベスの守備に任じたそうです。青木さんが遭難したのは昭和19年8月、乗船名は「めきしこ丸」ということですからこの絵とは別件でした。

青木さんの件と同時に思い出したのは池部良さんの件です。俳優の池部良さんのエッセイが何かの雑誌に載っていました。池部さんも中国戦線からハルマヘラ島へ輸送船で送られる途中、セレベス海で敵潜水艦の雷撃を受け乗っていた船が沈没、数時間泳いだところを救助されて、やっとの思いでハルマヘラ島にたどり着いたということでした。ハルマヘラ島では食料が不足して、ありとあらゆる物を口に入れ、ついにはゲジゲジを集めて炊いて食べてみたけれどマズくて食えたものでなかったそうです。そんな話を思い出して、もしかしたらインターネットでチェックしてみました。「池部良」・・・検索、ありました。セレベス海で遭難したのは昭和19年5月12日。小名木さんの遭難はマニラを5月6日に出港して6日あとですからドンぴしゃり。池部さんは、この絵の説明書きにある沈没輸送船3隻のうちのどれかに乗船していたようです。

説明書きにあるとおり、昼間の遭難で救助作業も容易であったようで、犠牲はことのほか少なかった(97名)。

それにしても太平洋戦争中の日本軍のやることは、普通の常識では考えられないようなことばかりです。

ひとつの例は輸送船による兵士や資材(武器弾薬・食料)の輸送作戦です。フィリピンやインドネシアに向かう輸送船は、バシー海峡や南支那海で待ちうけるアメリカの潜水艦によって面白いうに(失礼)撃沈されました。しかし日本側は、沈められても沈められても、ブレーキが利かなくなったベルトコンベアーのように次から次へと輸送船に兵隊さんを詰めて送りだす。何か、魔法にでもかけられたような話です。沈めるほうのアメリカ側も不思議に思ったことでしょう。沈めても沈めても兵士を満載した輸送船がどんどんやってきます。終いには船も、それに乗せる兵士もほとんどなくなった時点でベルトコンベアーはストップ。ついに終戦となりました。

日中戦争・太平洋戦争中に連合軍によって沈められた日本の軍艦は651隻、商船(陸海軍の徴用船を含む)が2,934隻。それに伴う戦没者は陸海軍軍人・軍属36万人、商船船員・民間人7万人。合計43万人のおおよそ40パーセントにあたる17万6千人が輸送船につめこまれた陸軍の軍人・軍属でした。

次から次へと輸送船を送り出して、バシー海峡はもとよりセレベス海(メド沖)などで十何万人も沈めたことを不思議に思っていたら、ある話が耳に入りました。

太平洋戦争の真っ最中、ハルマヘラ島ジャイロロ村の教会にドイツ人の宣教師がいたそうです。村人とも親しくして人望もあったそうですが、終戦のあと何のまえぶれも無く姿を消してしまった。不思議に思った村人が牧師さんの住居を調べてみると、衣服や生活道具もそのまま、物置部屋に強力な無線機と笛がありました。近所の村人は牧師さんが時々笛をふくのを見ているそうです。この消えた牧師は、もしかしたらドイツのハーメルンからきた魔法使いで、無線機を使って笛の音を大日本帝国陸軍の参謀本部まで送っていたのではないかと考えていますが、ちょっと信じられない話ですね。

第3図 艦砲射撃

ハルマヘラ島の北東部に寄り添ってミチ島。(第1図参照) 小名木一等兵が所属する第四中隊はこのミチ島の守備に配置されていたようです。

ソロモン群島を押さえた連合軍は、ホーランドディア(今のジャヤプラ)、続いてビアク島を制圧し、いよいよハルマヘラ、モロタイ島方面に迫ってきます。昭和44年(1944)9月15日朝、ミチ島守備隊の目の前に敵艦2隻が現

れて、ハルマヘラ島のトペロ、ガラレ方面に猛烈な艦砲射撃を加えました。守備隊は固唾をのんでその様子を見ているというのがこの絵です。

実は、この艦砲射撃は敵の陽動作戦で、射撃がおこなわれている間に連合軍の上陸部隊はモロタイ島の南西部海岸に上陸しました。モロタイ島には日本軍の作りかけの飛行場がありました。(作りかけで放置されていた)。連合軍(主力は米軍、プラス豪州軍)はその作りかけの飛行場を急速に整備して完成させ(3日で完成させたらいい)、フィリピン反攻の足場としました。その意味でモロタイ島は戦略上非常に重要な位置にあるわけですから、日本軍もモロタイを取り返すべく躍起になりました。ハルマヘラ島の守備兵力をさいてモロタイ島逆上陸を企てたりしましたが兵力の差は如何ともしがたく、いたずらに消耗を重ねました。第四中隊もミチ島に一部を残して主力はモロタイ島で全滅。

第4図 パチャ村

連合軍がモロタイ島に上陸したあと、小名木さんの分隊(小隊?)はミチ島から対岸のパチャに移りました。戦雲急を告げる中、のどかな村の情景を描いた良い絵ですね。

第5図 兵士の姿

作者自身がモデルの兵士の絵。右はハルマヘラ島上陸時の姿。帝国陸軍軍人の正装です。体重68キロ。左は終戦時の姿。ふんどし一丁で手には蛮刀。足は熱帯性潰瘍で穴があいています。体重39キロ。それでも生きていてよかったですね。

この絵も、前にあげた輸送船沈没の絵とともに太平洋戦争を象徴する絵といえるでしょう。もともと国力不相応の戦争を始めたために作戦面でも理屈に合わないことばかりで行って、日本は自滅の道をたどります。

お手元の地図でアジア・太平洋を見てください。西はビルマから東はマーシャル群島まで。その広大な範囲に、日本軍は進出しています。インドネシアだけ見ても、いくつあるのか数えきれないほどの島々にそれぞれ守備兵力を置いている。北スラウエシとその周辺離島だけでも海岸線いたるところに日本軍の痕跡があります。戦線の膨張と兵力・資材の不足。軍中枢部の戦争の専門家たちは戦争遂行が無理だということはわかっていたはずですが、いちど始めたことはやめられないということでしょうか。やっぱり魔法をかけられていたのでしょうか。

一方、攻めあがる連合軍は、太平洋に無数にある島々をひとつずつ攻めるのも大変ですから、要所要所、戦略上重要な島を選定して攻めつぶし、その他の島々は放っておいた。常識的な戦法です。日本軍の補給路(輸送船の航路)には潜水艦を配置して、通りかかった輸送船は魚雷攻撃で沈める。島々に取り残された日本軍兵士は食料の補給ができないために衰弱し、病死・餓死とみじめな結末をむかえることになります。

日中戦争・太平洋戦争における日本の軍人・軍属の戦没者数は公称230万人。その実に60パーセントにあたる140万人が餓死(栄養失調にともなう病死を含む)したということです。フィリピン、インドネシア、パプアニューギニア、ソロモン群島、ジャングルの中にまだ日本に帰れない遺骨が残っています。

第6図は終戦後の体重測定風景。山羊か豚と間違えられそうです。

第7図、カウ兵舎の配置と第四中隊農場。すでに終戦になっていますが、カウ駐屯時はまだ日本軍の配置のまま、このあと昭和21年5月末、ペラワン収容所に移って本格的に米軍の管理下に置かれたようです。

第8図はそのペラワン収容所。米軍のことですから食料事情も格段に良くなったことと思います。

第9図、カウ兵舎でのたのしい中隊会食です。さつま芋だけのごちそうですが、生きている実感がわいてきたようです。

第10図 イカンボン作戦。食料調達作業のひとつで、魚を獲るのに手っ取り早く手製のダイナマイトを使った。インドネシアやフィリピンでは現在でもダイナマイト漁が問題になっていますが、そもそもの始まりは日本軍のダイナマイト漁にあったのではないかと。

第11図以降はハルマヘラの民俗調査の色合いをおびてきます。食用動植物(図11)、製塩(図12)、サゴ澱粉造り(図13)、やし油造り(図14)、やし酒造り(図15)、島民の日用品(図16)、自給自足の軍隊は必然的にほとんど現地住民と同じ生活を体験しました。

資料的価値の高い絵です。

小名木さん、ありがとうございました。

(長崎)

ビトンの若者の間で流行している日本とは

大貫 周明

ご存知の通り、インドネシアは中国、インド、米国に次ぐ人口が4番目に多い国です。客観的に見ますと、それだけ大きな市場があり、多くのビジネスチャンスが残されている国と言えます。しかも人口の2/3が30歳以下という非常に発展する潜在要素を秘めており、資源もある。私はこの様な国が、今まで、何故に発展が遅れていたのかが不思議な感じがします。イスラム教の国だからなのか、財閥が強いからなのか、色々と事情はあるでしょうが、今後がとても有望な市場を有している国であることには違いありません。

そこで、この急成長に乗って何か商売出来ないかという事を自分勝手に書かせてもらいます。アジア圏の成長を見ておきますと、発展する際に大きく伸びる商売は、インターネット・通信関係、電子機械、自動車産業、金融、不動産などが挙げられるでしょう。でもお金の無い僕にはどれもちょっと無理な感じのビジネスです。サービス業なら出来るかもです。では、スラウェシ島(ビトン)で日本人という事を前面に出して小額の資金で出来る事は何かあるか？その為には、まずは調査だ！という事で、マグロの加工場の若者をあつめて日本についてのトレンドを調査しました。その結果がこれです！！ ↓ 何と役に立たない情報でしょうか。

一番有名な日本人 … 香川(サッカー)、中田ヒデキ(サッカー)、中村(サッカー)
日本人で好きなアーティスト … 宇多田ヒカル、五輪真弓、谷村新司
日本の事で知っているもの … 空手、忍者、サムライ、車やバイク、ソニー

ビトンの青年達へ食べさせてみた日本から持参したもの

総菜:梅干し	不人気	酒:イモ焼酎	好き
菓子:ミルクィー	大好き	漬け物:たくわん	あまり人気無し
菓子:いちごみるくキャンディー	結構好き	菓子:歌舞伎揚げ	好き
漬け物:きゅうりのQちゃん	普通に食べた	つまみ:うるめ干し	普通に食べた
お茶漬けの素(永谷園) サケ	普通に食べた	つまみ:チーかま	微妙

で、最初、お金をかけずに始められる事として私が考えたのは、日本が誇る空手や柔道教室。でも、自分はやったこと無いので、ニセモノはすぐに判ってしまうと、あきらめました。次に考えたのは日本料理教室です。日本食レストランを経営するにはお金が掛かるので。。。刺身やてんぷらなどが作れば、ジャカルタやバリなどの高級日本レストランで働けるぞ、と生徒を集めて教えるというのはどうかな、と。これはまだ構想中です。

で、彼らが知っている”日本”を調査している際に判った事があります。それは日本語も流行っている、いや興味がある、という事です。実際にとても人気があるのです。

ある日、従業員のひとりが俺の名前を日本語で書いてくれ、という事で書いてあげたのがきっかけで、その後、毎日2～3人が私のもとを訪ねてくるようになってしまいました。

本当に申し訳ないのですが、最初はいいかげんにあまり考えずに名前を漢字で書いておりました。

例えば アンディ→安出井、マルスキ→丸好、ジェフリー→自得振、ガラ→我裸、ルディ→留出井。

でも、これが好評で、そのうち自分の彼女や婚約者の名前も日本語で書いてくれという依頼が入りはじめました。で、私は画数の多い時の方が喜ぶだろと思って彼らに書いてあげました。

エバー→江婆、クリスティン→栗酢天、アグネス→阿愚根素、シシリア→獅子離垂 etc

ところが、ある日、彼らの一人が婚約者の名前をタトゥーで腕に入れてきたのです。

彼の左腕にはエスラ(江酢裸)と大きく書かれておりました。

その時、私は、ああ、しまった。もっとちゃんと考えてやればよかった！と大変後悔しました。

これを機に、私は名前を頼まれたら、時間をかけてちゃんと考えて書いてあげる事にしました。

また、漢字を意味のあるように組み合わせ、その意味も解説してあげる事にしました。

例えば、アネ→姐:おねーちゃん、マイケル→舞蹴:踊りの達人など。(かなりいい加減ですが)

で、ついでにマジックで強弱をつけて筆で書いたようにカッコよく書いてあげておりましたところ、ありがとう、と言われ Rp 5,000を私にくれたのです。

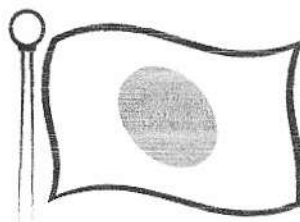
その瞬間私は、「これだ！」と直感しました。 こうして新商売「あなたのお名前、日本語にします」が誕生しました。コストほぼゼロで100%利益の商売です。

で、この商売が今順調かというと実は全然ダメです。

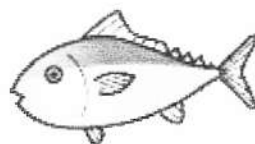
有料にしたところパッタリと誰も頼んで来なくなりました。。。

時々、子供さんが生まれた際などにお子さんの名前を頼まれる程度です。

世の中なかなか甘くはないですね。 では、また。



工場直売品のお知らせです



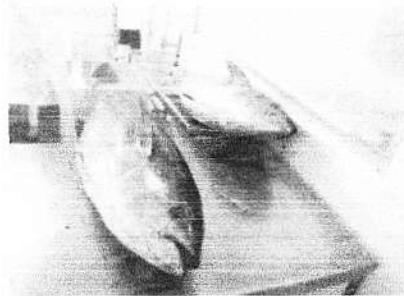
大貫 周明

みなさんこんにちは。ビトンにいる大貫です。今日は私が日々仕事でお世話になっている会社 PT. SIG ASIA (マグロ加工)よりお得情報をひとつご紹介させていただきます。宣伝ですみません。ここはマグロを冷凍加工している会社で、日本、韓国、アメリカ、シンガポールetcへコンテナで出荷しております。あまり知られておりませんが、実は地元の方々にも自社製品の小売を行っております。いきなり知らない会社のドアを開けて入るのが苦手な方は、ドアの横に呼鈴がありますので、お気軽にピンポン押して下さい。マグロの刺身がご入り用の際は是非一度お越し下さい。

価格の一例(いつでも買える定番) 冷凍物です。

キハダの刺身(粗切り) SASHIMI	Rp 40,000/kg	ホームパーティーに 豪快にカマ丸焼きでどうぞ 珍味 焼くとホルモンの食感 スープにどうぞ 魚団子に最適
キハダのカマ TUNA KAMA	Rp 5,000/kg	
キハダのノド肉(筋) TUNA TENDON	Rp 10,000/袋	
タイやハタの頭 KEPALA IKAN DASLA	Rp 15,000/kg	
色々な魚のクズ肉 TRIMMED IKAN DASLA	Rp 10,000/袋	
色々な魚の卵 ISI PERUT IKAN DASLA	Rp 10,000/袋	
カツオ ぶつ切り 刺身OK 船凍品	時価	
シマダコ 丸ごと1尾を冷凍しています	時価	

あと、裏メニューとしてキハダマグロの頭があります。こちらは1頭 Rp 5,000 です。生の状態です。なぜか大きくても小さくても同じ Rp 5,000 です。これが実は一番人気で常連のお客は一人で3個も4個も買って帰ります。可食部としては頭肉、目の裏の肉、アゴの肉、ホホの肉(大きいサイズは取り除かれている事があります)と結構ボリュームあります。肉を取り出すのが大変だと思いますが。。。毎日夕方になると残債集荷業者が引き取りに来ますので頭を買いに行く際はお早めに。お持ち帰り用の大きな袋は工場を用意しておりませんので、麻袋持参をお願いします。この他にも、メカジキのステーキ用の切り身、シイラ、サメの切り身などもあります。ちょうどマグロが入荷して加工中の場合は、生マグロも量り売りで買えます。PT SIG ASIAの場所はビトン漁港の漁協(ペリカニ)の隣です。ビトン港のゲートを入れて直進。突き当たりのT字路を左に曲がりましたら目の前にあります。営業時間は 8:00~17:00 月~木 / 8:00~11:00 13:00~17:00 金曜日 土日祝は不定期休み お問い合わせ電話番号 0438-34330です。英語の場合は 085-2408-06222 フェレリーさんへ。



今年1月、マーシャル諸島のマジュロ島(環礁)に行って来ました。

マーシャル諸島といえば、赤道直下マーシャル群島〜・・・と歌われているように、私たちには昔からなじみの深い名称です。今回の旅の同行者はマグロービジネスのOさん、男二人のヤジキタ道中でした。

1月19日21時中部国際空港発コンチネンタル航空(B737)は、3時間ちょつとの飛行でグアム島到着です。グアムでマーシャル諸島行きに乗り換えということですが、出発は朝8時ということで空港ターミナル内で時間をつぶしました。グアムのターミナルは6年ぶりです。相変わらず入国審査の列がごった返しています。狭いホールの中につづら折りの列をつくって中国か台湾人の観光客がいっぱいいて、その中に日本人が少し混ざるような感じでした。列の進みはジャカルタのそれより遅くていらします。日本やシンガポールの空港での入国審査に慣れている身としては腹が立つほどでした。のろのろ渋滞の原因は、ひとりひとりの入国審査に時間がかかるためです。入国カードの項目も小さな文字でいっぱいあってそれをいちいちパスポートと照合するだけでなく、両手の10本の指の指紋、顔の写真と、何でそんなことまでやるのかと腹を立てても仕方ありません。何故そこまでやるかというと、たぶんテロリスト対策ということでしょう。

アメリカという国も因果な国で、第2次大戦が終わってからも朝鮮戦争、ベトナム戦争、イラク、アフガニスタン、絶えずどこかの国で戦争を続けています。ということはたえず「敵」をかかえているということで、観光地であるはずのグアム島さえも臨戦態勢にならざるを得ないのでしょう。

会員の皆様、「今年の正月はグアム島へ」などと気軽に旅行業者の口車にのらないほうがよいと思います。ブナケンの玲子さんのところが海もきれいだし、安全であります。

1月20日朝8時グアム発、コンチネンタル航空(B737)。ほぼ満席です。この飛行機はこれからトラック諸島(今はチューク諸島と呼ぶそうですが、本稿ではトラックでとおします)、ポナペ島(これもポンペイ島ですがポナペ)、コスラエ、クエゼリン、マジュロを経由し、終点はホノルル、つまりグアムとホノルルをむすぶ路線で1日1便。ホノルルからもグアムに向かう定期便が毎日1便あるそうです。(1機が2日がかりで1往復)

グアム島を出て2時間余、機が高度を下げ始めて色鮮やかなサンゴ礁と緑の島が見えてきました。トラック環礁です。世界一の環礁のなかに大小の島々が配置されて息をのむような美しさです。

私は生まれて9ヶ月目に(ポナペからの)引き揚げ船でこの環礁に入ったとき、運悪く乗っていた輸送船が米軍機の魚雷攻撃を受けて撃沈され、運良く救助されて春島に上陸したそうです。九死に一生ということです。68年ぶりに見るトラックの島々はもちろん記憶にありません。私は昭和18年5月にトラック環礁の東方にあるポナペ島で生まれました。記録によると、そのころまでこのトラック環礁内に戦艦大和や武蔵が停泊していたそうです。山本五十六大將はトラック環礁に停泊中の旗艦武蔵から前線視察の形でラバウル基地に出張し、昭和18年4月に戦死されました。その10ヶ月あと、昭和19年2月17日、まだ幼児の私がここにやってきて米軍機に撃沈された、ということになります。

トラック(夏島)の空港では若干の貨物の積みおろしと人の乗り換えがあつて、50分後に離陸。次の寄航地は生まれ故郷のポナペ島です。およそ2時間後、アナウンスがあつて機は高度を下げ始めました。今までほとんど雲のない空を飛んでいたのですが急に雲が多くなってきました。雲の切れ目にサンゴ礁が見え、続いて緑の陸地が見えてきました。機は針路東で島の北部に接近しているので見えているのは島の北西部にあたります。雲のために視界がさえぎられてせまい範囲しか見えません。高度はどんどん下がって東向きに針路を保ったまま滑走路に進入、着陸。

待機時間はここでも50分ということで、Oさんをさそつて機を降りてみました。駐機場に降り立って「万感胸に迫る」という感じです。両親、いっしょにこの島に住んでいたという叔父さんたち、すでに向こうの世界にいつているなつかしい人々の顔が次々と脳裏にうかび、目頭が熱くなりました。

このあと、コンチネンタル機はコスラエ島、クエゼリン環礁に寄ります。コスラエは樹木がうっそうと繁っていて火山性の島のような感じです。私の座席は右側の窓際で、座席の下が貨物の出し入れ口になっています。エプロンに駐機中、窓に顔をつけて貨物の積み降ろし作業を見物していました。コスラエ空港に降りた貨物で最も多かったのは緑色のケースに入ったハイネケンビールで、ピックアップ車のいっぱい。代わりに積み込まれたのが穴のあいたダンボール箱です。中身は何だろうか。海産物に違いない。エビかカニか? マングローブガニの確率が高い、と考えたのは正解であつたとあとでわかりました。

次はクエゼリン環礁。ここはこれまで着陸した島々とは様相が変わりました。これは「島」というよりサンゴ礁そのものです。座席の位置の関係で、着陸寸前まで窓の外に見えていたのは青い海だけでした。着地寸前になってヤシの木が見えて、いきなり着地のショックがきました。滑走しながら見えるのはフェンスのそとのヤシの木とその外側の海だけです。駐機場に入ってから改めて見回すと、灰緑色に塗られた米軍の施設がいくつか見えました。クエゼリン環礁は太平洋戦争時の激戦地のひとつで、日本の兵隊・軍属が数千人斃れています。現在は米軍基地が置かれて、軍関係者以外は立ち入り禁止になっているようです。したがって人の乗り降りも貨物の量も他の島にくらべてかなりすくなくみえました。

クエゼリン環礁を離陸して、いよいよマジュロ環礁をめざします。グアム出発後マジュロ到着までに機内食サービスが2回ありました。2回ともハムサンドイッチの軽食ですが、ボリュームたっぷり腹の足しにはなります。客室乗務員は男性一人に女性二人。男性のほうは物腰も洗練されて、一流ホテルのボーイなみです。女性二人はどちらもやや太めで、通路を大股で歩くとドシンドシンと飛行機が振動しました。しかし無事にマジュロ空港に到着です。ちょうど西の水平線に夕日が沈むころでした。

空港に出迎えてくれたのはカブアさん。60歳少し前、恰幅のよい紳士で、去った12月の総選挙で国会議員に選ばれたばかりです。国会議員になる直前までマーシャル諸島国駐日大使を勤め、東京に3年間滞在したそうですが私は初対面でした。

代議士さんが自ら運転するオンボロアメ車で薄暗くなった道をホテルに向かいました。マジュロ島といっても実はサンゴ礁(環礁)にあるいくつかの島を道路(または橋)でつないだもので、空港のあるカブア島から市街地のマジュロ島に向かう途中は埋め立てられた道路でつながっています。その海中道路の一部が橋になっていて、礁湖と太平洋がつながっていました。

マーシャルアイランズ・リゾートホテル。マーシャル随一の観光ホテルという触れ込みですが、古くて掃除も行き届かず、かび臭い部屋でした。しかし、部屋の外は海(礁湖)で眺めはよかった。

マジュロ島での最初の朝、ベランダに出てホテルの船着き場を見ると、ダイビングサービスのボートが出発準備をしていて日本人らしき若い男が乗り込んでいました。このダイバーとは4日後に帰りの飛行機で一緒になりました。

1月21日、マジュロ島での初日。迎えに来たカブアさんの案内で、最初に、ホテルの近くのスーパーマーケットに入りました。広い駐車場に広い店内。いかにもアメリカ的なスーパーマーケットです。売り場主任は60代の日本人男性Hさん。Hさんは元まぐろ漁船乗りで、縁があってこの島に住み着いてしまったそうです。Hさんの案内で食品売り場を見ていたら、草の茎で爪をしばられたマングローブガニがありました。「このカニはどこから来ましたか」「きのうコスラエから来たものです」。納得。コスラエの空港で見たものでした。

その次に、「JMCC」と看板の出ているお店にはいりました。ここには日本人駐在員が3名もいました。若い男性二人に女性一人。東京に親会社があって、マジュロで建築資材の店をはじめたものが、建築資材以外も取り扱うようになって文房具、家電、工具類、ヤマハの船外機、ダイビング器材、釣り道具、発電機、味噌・しょうゆ等日本食品、こじんまりした店に何でもあります。日本人旅行者の世話もしているようで非常に重宝なお店です。我々もスタッフの一人の西村さんに滞在中お世話になりました。西村さんは夫婦でこの島に赴任しましたが、奥さんは出産のため日本に帰っているとのことでした。

二日目の朝、ホテルのレストランに年配の日本人男女7、8人、がやがやと入ってきました。案内しているのは昨日会ったJMCCの女性スタッフ、吉田さんです。戦没者の墓参団かと思ったら、仲間うちでの観光ということでした。こんな何もないさんご礁の島までよく行く気になるものだと感心します。日本のお年寄り元気です。

滞在中、西村さんの案内で島内の漁業施設(日本のODAでできたこじんまりした漁船溜りや冷蔵庫など関連施設があった)見学、漁業会社(中国のまぐろ加工会社)訪問、政府の水産局で巻き網漁業の実情聞き取り、と所定の用件を無事にこなしました。狭い島で移動に時間を要しないのでスケジュールとしては余裕たっぷりです。滞在中いくつかのレストランに入りましたが、規模はともかく質的にはインドネシアより上と見ました。

1月26日。カブアさん、西村さんの見送りをうけて10:40マジュロ島出発。飛行機はホノルル始発グアム行きのコンチネンタル機です。6日前に飛んできた道を逆に、太陽を追って西に向かいます。ダイビングに来たKさんも一緒に、並びの席に座って道中いろいろ話を聞くことができました。Kさんはグアムまで一緒になるかと思いきや、ポナペ島でひと潜りすると言って降りて行きました。我々はグアムで乗り換え、北西に針路をとって18:30名古屋着。10:40時マジュロ発で18:30時名古屋(中部国際空港)着ですからマジュロから名古屋までの所要時間

約8時間、と間違えそうですが、マジュロと日本は3時間の時差がありますから所要時間は約11時間になります。その晩、名古屋は気温が零度まで下がり、安ホテルの部屋は暖房が効かなくて震えあがりました。こんな寒い国に長居は無用、翌28日羽田発シンガポール経由でセレベス島メナトに「帰国」しました。

マーシャル諸島メモ

国名	マーシャル諸島共和国 (Republic of the Marshall Islands)
公用語	マーシャル語、英語
国家元首	大統領 (国会議員の中から選出。首相はない)
議会	1院制 33議席
歴史	17世紀にスペインが領有宣言。しかしそのまま放置された状態が続いた 1885年 ドイツが保護領とする。 1914年 第一次大戦において日本が占領 1919年 日本の委任統治領となる (国際連盟承認) 1944年 アメリカが占領 1947年 アメリカ合衆国の信託統治領となる 1954年 ビキニ環礁で水爆実験。第五福竜丸被曝 1986年 アメリカとの自由連合盟約国として独立 (したがってアメリカの保護・監視下にある) 1991年 国連加盟
産業	コブラ生産、漁業 (ほとんど台湾や中国など外国漁船の入漁による)
GDP (2001)	1億1千5百万ドル (1人あたり1,600ドル)
使用通貨	USドル
陸地面積	181平方キロ
人口 (2005)	62,000人
人口密度	326人 / 1平方キロ
筆者総括	第二次大戦後にアメリカの水爆実験場として利用されたことからわかるとおり、マーシャル諸島というのは大洋の中の資源も何もないサンゴ礁の島々です。住民が少しは住んでいるのでアメリカにとっては水爆実験場としてもってこいの場所であったかも知れません。島のいくつかは現在も引き続き軍事基地として利用されており、水爆実験の見舞金とあわせてアメリカからそれなりの金が支払われているようです。 「資源も何もない」と書きましたが、実はマーシャル諸島というのは水産資源 (かつお・まぐろ等) の大国です。それを狙って台湾中国の漁船が入りこんでいます。「台湾系大型巻き網漁船が100隻、1隻1操業日あたりの入漁料は5,000USドル」(水産局係官の言)。カツオマグロ資源の管理という意味で非常に深刻な事態であると同時に、マーシャル諸島国にとっても地場産業を育てないで見舞金や入漁料などの「不労所得」にたよっているということでは国の健全な発展はむづかしいのではないかと。(アメリカの望むところですが) 国内には今回案内してくれたカプア議員のように地場産業の育成を意識している方もいるし、また日本政府もODAなどで「気持ちだけ」のことは見せています。おたがいにもう一歩踏み込む姿を見たいところです。

領事出張サービス

去った6月23日(土)、メド市内グランプリホテルにおいて落田領事による出張業務が行われました。これまでマカッサル駐在の領事がメドまで出張するのは派遣医師団の引率くらいで、パスポートや在留届けなど諸手続きのための出張サービスは初めてではないかと思います。私もさっそくパスポートの増ページをお願いしました。増ページのためにマカッサルまで行く予定でしたので、旅費・時間の面でとても助かりました。

戦前はメドにも領事館があったそうですが(建物は現存)、時代がかわって北スラウェシはマカッサル総領事館の管轄となり、北スラウェシは諸手続きその他で日本との距離が遠い「僻地」となっています。現地インドネシアの人々にとってもビザの申請等でマカッサルまで行くのは負担が大きいです。その他、日本関係の催し物も開催しにくく、結局ますます日本との距離が開いていくと思います。戦前・戦中を通して北スラウェシは日本との関係が深く、親日的といわれるインドネシア国の中にあっても特別に親日的な地域です。しかしこれは先輩達が築いた実績であって今の私たちが築いたわけではありません。居心地のよさを満喫しているだけではちょっとマズイのではないのでしょうか。

今回の出張サービスは我々在留邦人にとって非常にありがたいことですから、継続していけるようにお願いしたいと思います。また、われわれ在留邦人のことだけでなく、北スラウェシ現地住民のためにも有意義な企画をたてて実施していただきたいと思います。GDPは中国に抜かれたとはいえ、日本はまだ世界に冠たる経済大国です。しょぼくれたような恰好はできません。

(編集部)

北スラウェシ州在留邦人の皆様

先日は領事出張サービス、夜の懇談会の際はありがとうございました。
夜の懇談会は海岸沿いのレストランで皆様と楽しい時間を過ごすことができ、本当に良い思い出になりました。
小官も赴任して1年と2ヶ月でようやく皆様にお会いできたことに大変嬉しく思います。
マカッサルとは違い、セカセカした感じが無く、本当に良い町だと心から感じることができました。

北スラウェシ州は当事務所の管轄域内とはいえ、遠隔地のため、お手続きの際は飛行機で当地までお越しなくてはならないのが現状です。御不便をお掛けし申し訳なく思います。
予算の関係もありますが、今後も領事出張サービスで北スラウェシ州を御訪問させていただき、皆様のお役にたてればと考えております。

先日、御連絡申し上げるのを失念しておりましたが、10月上旬に「巡回医師団」でのマナド訪問を計画しております(あくまでも予定です)。決まり次第改めて御連絡させていただきます。

この度は本当にありがとうございました。在留邦人、御家族の皆様におかれましては、どうぞお体には御自愛ください。

今後ともよろしくお願い致します。

在マカッサル出張駐在官事務所
落田 野歩

在留邦人の皆様

平成24年6月28日
在マカッサル出張駐在官事務所

7月20日(金)頃より、イスラム教徒の断食月が始まります。つきましては、断食月の注意事項を以下の通り、とりまとめましたのでご参考下さい。

1. 断食の目的

- ・イスラム教徒の義務、自己鍛錬や精神修行。
- ・私利私欲を押さえ、悪口や悪意を排除し、他人を思いやり、尊敬する心を養う。

2. 断食期間

- ・7月20日頃(現段階では未定。月の満ち欠けで決まる為)～8月19日頃まで。

3. 注意事項

- ・断食中はイスラム教徒の前で飲酒・喫煙は控える。
(ゴルフ場で水を飲む場合には、キャディーに断って飲むように心掛けてください。
- ・仕事は平常通りにするのが義務であり、必要以上に遠慮することはありません。
- ・病人や妊婦・出産後の婦人、旅行中などは断食を行わなくても構わないとされています。

4. その他

- ・断食明け大祭(レバラン)には新しい洋服の購入、帰省などの支度で出費がかさむことから、断食月には強盗・盗難などの一般犯罪が増加する傾向にあります。

※今まで以上に犯罪に対する防犯意識を高めて行動してください※

- ・事務所、自宅の鍵は必ず閉める。
- ・道を歩く際は道路の端を歩き、鞆は道路との反対側の手に持つ。
(常に後から誰かにつけられている事を意識する)
- ・外国人であることを自覚し、周囲に目立つ行動は避け、トラブルに巻き込まれないようにする。

・各地域に於いて、飲食・娯楽施設業者(カラオケ含む)宛てに断食月中の業務規制についての行政指導文書が発出されています。外国人及びイスラム教徒以外であっても警察の取り締まりや処罰の対象となりますので、十分注意して下さい。

・通常、断食明け大祭(レバラン)にあわせて従業員や使用人にボーナスにあたるレバラン手当て(通常月給の1ヶ月分)がレバランの2週間前に支給される慣習がありますので、ご参考まで。

なお、当事務所は断食明け大祭(レバラン)期間中である、8月20日(月)、21日(火)を休館日としておりますので、お知らせいたします。

駐在官事務所からのお知らせ

2012年7月25日 水曜日 午前11:01

"MAKASSARRYOUJI" <makassarryouji@mofa.go.jp>

アドレスブックに追加

@localhost

詳細ヘッダー

在留邦人の皆様

平成24年7月25日
在マカッサル出張駐在官事務所

平素より御世話になっております。

10月7日(日)、マナド、クオリティホテルに於いて、
外務省巡回医師団による健康相談を実施致します。
前回同様(2011年2月8日実施)、亀田総合病院より医師2名に来ていただき、
在留邦人への健康相談を行います。
北スラウェシ州及び近郊には、日本人医師は存在せず、医療レベルにおいても低いため、
健康については色々な悩みをお持ちになっていることと思います。
是非、健康相談に参加していただき、日々の健康に対する悩みを
お話頂けると、幸甚です。

本巡回の詳細は後日、改めてご連絡させていただきます。
ご協力のほど、宜しくお願い致します。

《ご参考まで》

巡回医師団派遣予定者

- ・村中 清春医師・・・総合診療、感染症科
- ・小畑 聡一郎医師・・・産婦人科、内科、小児科

～ 渡航情報(広域情報)～

(件名)夏休みを利用して海外へ渡航される皆様へ(海外で快適にお過ごしいただくための注意事項)

(内容)

夏休みを利用して海外に渡航される方も多いことと思われますが、一般に海外の治安は日本と比較して必ずしも良いとは言えず、また気のゆるみからも、何らかのトラブルに巻き込まれる可能性は排除できません。海外に渡航・滞在する場合には、法制度、文化、風俗・習慣等が日本とは異なること及び安全慣れした邦人旅行者を狙う人々が近くにいる可能性があることを強く認識して、トラブルに巻き込まれないよう十分注意することが大切です。

海外に滞在中、できるだけ安全かつ快適にお過ごしいただくため、また、不測の事態に巻き込まれることなく無事に帰国するための参考として、主な注意事項を以下のとおりお知らせいたします。

※海外に渡航・滞在を予定される方は、滞在中はもちろん、旅行計画の段階から、現地の治安関連情報の入手・理解を心がけてください。

※旅行中、万一事件・事故等に遭遇した場合には、現地警察等の指示どおりに行動するほか、最寄りの日本国大使館・総領事館等にも報告するようにしてください。

※旅行中の日程・連絡先・旅行会社等の情報は必ず本邦の家族等に知らせておくとともに、旅行の間も家族等との連絡を絶やさないでおくようにしてください。

※各国の詳しい渡航情報については、海外安全ホームページ「国・地域別の渡航情報」を御参照ください。

1. 各種犯罪被害について

いずれの国や地域においても多種多様な犯罪が発生し、また多くの旅行者が被害に遭っています。海外滞在中は、どの国や地域を訪問しても何らかの犯罪に巻き込まれるおそれがあることを常に念頭に置いて、慎重に行動するようにしてください。

基本的な心構え(対策)は次のとおりです。

○多額の現金や多くの貴重品を持ち歩かない。

○空港や市内両替所で多額の両替・換金をしない。両替後の強盗等に注意する。

○目立たない行動や服装を心がける。

○夜間あるいは人通りの少ない場所の一人歩きは絶対に避ける。

○タクシーを利用する際は、いわゆる「白タク(先方から声をかけてきて客を乗せ込む性質のもの)」は絶対に利用せず、たとえば最寄りの大きなホテルまで行って乗る等の工夫を心がける。

○見知らぬ人から日本語や片言の英語等で親しそうに話しかけられた場合、誘いに乗って一緒に行動すると、睡眠薬強盗(睡眠薬を入れた飲食物を勧め、意識を失っている間に所持品を奪おうとするもの)やいかさま賭博、あるいは「ぼったくり」等の被害に遭う可能性が高いので、絶対についていけないようにする。(可能な限り「急いでいる」等と述べ、最初から取り合わないよう心がける。)

○生命と身体の安全を最優先する。強盗に遭っても、相手が武器を持っていることを想定し絶対に抵抗しない。

○現地の風俗・習慣に配慮する。日本人同士で集団で騒ぐ等、現地の人々の感情を刺激するような行為は慎む。

2. 麻薬等違法薬物犯罪に関する注意

多くの国や地域では、麻薬等違法薬物犯罪に関する取締りが強化されています。罰則等も非常に厳しく、国によっては外国人にも例外なく死刑や終身刑等の重刑を科しています。「旅行者だから少しぐらい・・・」といった甘い考えは絶対に通用しません。違法薬物には絶対に興味を示さないようにすることはもちろん、繁華街の路地裏など麻薬・薬物犯罪の温床となるような場所には近づかない、不審なもの(タバコ、高級茶葉と称される例が多い)を購入しない、そして、見知らぬ人物から物品の購入や運搬を依頼されても決して応じないことが肝要です。なお、自分では気付かないうちに「運び屋」として利用される可能性もあるので、出国の際、見知らぬ人物又は知り合ったばかりの人物から、「△△氏へのおみやげを持って行って欲しい。」などの依頼を受けた場合

は、毅然とした態度をもって断りましょう。また、知らない間に手荷物に薬物等に入れられてしまうこともあるので、空港等においては手荷物から目を離さず、管理を徹底してください。

3. デモ・集会等に関する注意

世界各地で多種多様かつ大規模なデモ・集会の開催が目立っています。デモ・集会は、その性質によっては暴動や治安部隊との衝突に発展することもあるなど、状況に応じ大きな危険が伴う動きのひとつです。治安が安定しているように見える国・地域・都市・町でも、国際・国内情勢の推移によっては、いつ、どこでこのような事態が発生するかわかりません。海外滞在中は、このような可能性もあることを念頭に置き、現地の治安情勢に気を配りつつ、以下の諸点にも留意の上、安全確保に注意を払うよう心がけてください。

- 外出する際には周囲の状況に格別の注意を払い、大勢の人が集まって、デモ・集会等の動きを見せているときは絶対に近づかないようにする。(写真・ビデオ撮影等は厳禁。)
- 公衆の場での言動や態度に注意する。群衆を刺激するような行為は慎む。
- 現地報道等をこまめにチェックする。

4. 自然災害に対する心構え

国や地域それぞれに、地震・津波をはじめ、火山、台風(暴風雨)あるいは竜巻、洪水等、現地特有の自然災害に見舞われることがあります。滞在する場所によっては、旅行者が突然このような災害に巻き込まれたり、また移動途中に思いがけず被災箇所へ踏み込んでしまったりする可能性もありますので注意と警戒は不可欠です。

もちろん、予測不能な災害もありますが、以下の点に留意して、災害や事故に巻き込まれないよう行動予定を慎重に検討してください。

- 日頃から現地の情報や交通情報の収集に努め、予報や警報に留意する。
- 渡航予定地の災害パターンや状況に応じて、日程・移動手段・訪問地を変更する、あるいは不要不急の移動や渡航を控える。
- 万一滞在中の場所が災害に巻き込まれるような状況に遭遇した場合は、迅速に、日本の家族等関係者及び最寄りの日本国大使館又は総領事館に連絡をとり、安否状況を報告する。

5. 交通事故について

海外は日本とは交通規則が異なる上、多くの国や地域では交通マナーも徹底されていないことから、交通事故に巻き込まれる旅行者が絶えない実情があります。道路の横断方法など、日本の常識がまったく通用しない国や地域もあります。そんな状況を見て、「郷に入っては郷に従えでよいのではないか」と、そんな錯覚に陥りがちですが、これは大きな間違いです。ルールやマナーが徹底されていない海外にいてこそ、日本人として自ら模範を示す自覚がほしいものです。なお、基本的なことですが、散策中などは左右前後をよく確認し、気を配り普段以上に安全確保に留意してください。

また、レンタカーやレンタル・バイクの利用を予定される場合は、「現地のルールは実践で学ぶ」のではなく、くれぐれも現地のルールやマナーを十分学び、かつ安全運転が可能か否かを踏まえて、利用の是非を検討してください。

6. 旅券(パスポート)の管理及び携行義務について

(1)最近、世界各地で日本人の旅券(パスポート)の紛失・盗難事案が多発しています。紛失や盗難を防ぐためにも、①パスポート等貴重品の入ったバッグは身体から離さない、②バスや地下鉄の車内ではリュック等は身体の前で抱える、③人混みの中では荷物から目を離さないようにするといった行動を心がけてください。

(2)万一パスポートを紛失したり、盗難に遭ったりした場合は、直ちに現地の警察に赴き、紛失届あるいは被害届を提出し、いずれかの写し又は紛失・被害証明を入手するとともに、日本国大使館又は総領事館の領事窓口までご連絡・ご相談ください。

なお、日本国大使館や総領事館において新たなパスポートや「帰国のための渡航書」の発給を受けた場合、国や地域によっては、その後、改めて出入国管理局等で出国のための確認手続きが必要となり、この一連の手続きが終了するまで相応の時間がかかることがあります。このように、パスポートを紛失したり、盗難に遭ったりすると、その後の手続きが大変煩雑であり、かつ時間を要します。

パスポートは、海外において自らの身元を証明する重要なものであるのみならず、紛失したり盗難に遭ったりすると、たとえば改ざんされて密出入国などに悪用されたり、他の犯罪を引き起こすような問題ともなります。管理は慎重に、かつ徹底して行ってください。

(3) 多くの国や地域では、外国人はパスポートを常時携帯することが法律で義務付けられています。したがって、警察官から職務質問を受け、また提示を求められた場合にはこれに応じなければなりません。違反すると罰金等を科されることもありますので、パスポートの常時携帯が義務づけられている国・地域では、紛失したり盗難に遭ったりしないよう十分注意し、管理を徹底して携帯してください。

7. 旅行制限区域及び写真・ビデオ撮影の制限等について

多くの国や地域では、政府関係施設や軍事施設及び軍事関連施設、あるいは宗教施設等の立入りが厳しく制限されていますので、慎重に行動してください。

また、これら施設や設備がある場所の周辺では写真・ビデオ撮影が禁止されている場合が多く、そのような場所に近づいただけでも現地法令に基づいて、逮捕・拘束、カメラ等所持品の没収がなされる場合がありますので、最大限の注意が必要です。宗教上の理由から女性の撮影が禁忌とされていたり、政治上の理由により街頭デモのような政治活動の撮影が禁じられていたりする国や地域もあります。さらに、一部の博物館、美術館等では写真撮影等が禁じられているところもあります。日本にいたのと同じ感覚で行動することは厳に慎み、たとえば撮影の前には必ず周囲の係員や現地の人々等に制限の有無等について確認を求めるようにしてください。

8. 健康管理について

快適な旅行を続けるためには、健康管理は最大の課題です。各種感染症対策については、別途「広域情報」が発出されており、各国・地域別の「安全対策基礎データ」の中にも健康管理についての注意事項が掲載されていますので、これらを参考にして健康管理に注意を払ってください。

なお、熱帯地方に渡航・滞在を予定する方はもとより、この時期、北半球を中心とする地域への渡航・滞在を予定される方は、特に「熱中症」対策が不可欠です。次の注意事項を踏まえ、体調維持に努めてください。

○水分、ミネラルを十分に補給する(但し、つめたすぎるものや糖分の多いもの、アルコール類は飲まない)。

○トレッキング・登山等を計画する場合はペース配分を考え、直射日光の下、長時間歩くことは避ける。動悸がしたり、気分が悪くなったり、めまい、脱力感等の症状があればすぐに涼しい所で休息をとる。特に標高2,000mを越えるような高山・高地での活動の際には高山病にかからないよう気をつける。

○直射日光を避け、皮膚や健康を害することに注意する。色の薄い、ゆったりとした服を着て、つばの広い帽子を被り、サングラス、日焼け止めクリームを使用する。

○持病(特に心臓病、高血圧)や循環器系の病気のある旅行者は、高温の環境下では急性の発作を引き起こしやすいので、暑い時間帯の行動を避ける。常用薬を携帯し、単独で散策しないよう注意する。

○冷房の効いた屋内と屋外との温度差は激しいので、特に高齢者や子供は衣服で温度を調整する。

9. 海外旅行保険

国や地域によっては、突然事故に遭い、また病気や怪我をして病院に搬送されても、実費あるいは保険等による治療費の負担が保証されないと、診察や治療が受けられない(断られる)ことがあります。また医療水準や衛生事情により、その国では必要な治療が受けられず、他国や日本への緊急移送が必要となる場合もあります。当然のことながら保険に入っていないと、時には数千万円にもものぼる高額な医療費・移送費を全て自己負担しなければなりませんので、万一来に備え、十分な補償内容の海外旅行保険に加入しておくことを強くお勧めします。なお、クレジットカードに付帯している保険では補償として決して十分ではない点にも留意が必要です。

10. テロ・誘拐対策について

テロや誘拐対策に関しては、以下を参照し、不測の事態に巻き込まれないよう十分注意してください。

(1) 2012年6月26日付け広域情報「テロ事件に関する注意喚起」

(2) 2012年6月26日付け広域情報「誘拐事件に関する注意喚起」

(3) パンフレット「海外旅行のテロ・誘拐対策 Q & A」(URL : http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph_10.html)

(4) パンフレット「海外へ進出する日本人・企業のための爆弾テロ対策 Q & A」(URL : http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph_03.html)

(5) パンフレット「海外における脅迫・誘拐対策 Q & A」(URL : http://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pamph_04.html)

(問い合わせ先)

編集後記

今号は柴田さんの御好意でハルマヘラ島スケッチをメインディッシュにしました。ハルマヘラ島は会員の皆様よく御存知のとおりスラウェシ島のすぐ東にあります。近い割にはみなさん訪れる機会はなかなかないようです。私も行ってみたいと思いながらまだ実行できません。

インドネシアの中でも開発がおくれている、というか忘れられているような島ですが、このハルマヘラ島とその向こう側にあるモロタイ島が先の大戦で重要な役まわりを勤めました。実際にはモロタイ島が連合軍のフィリピン攻略のための足場として目をつけられ、それを妨げるべく日本軍は兵力をつぎ込み、多くの犠牲をだしました。犠牲を出したといっても実際の戦闘で出した犠牲よりも餓死、病死、それにハルマヘラ島にたどり着く前にバシー海峡、スルー海、セレベス海に沈められるような、無念な犠牲が多かったようです。スケッチの作者は小名木さんという元陸軍の兵士です。この絵は、柴田さんが偶然にタラウド島へ慰霊にこられた森さんとメドの空港で知り合って、森さんが帰国後に送ってくれた絵(コピー)の一部です。スケッチは出征風景から中国戦線、南方転進途中のマニラ寄航、そしてハルマヘラでの抑留までシリーズになっていますが、今回はコピーの状態が比較的良好なものを選んでみました。苦勞された兵士たちも世代的に残り少なくなっています。作者の小名木さんも健在かどうかは確認できませんでした。

私たちはたまたまこのような歴史の現場周辺に在住しています。歴史を風化させないためにもこの種の資料に行き当たったらできるだけ取り上げたいと思っています。

久しぶりに石野さんからエチオピアの続編が届きました。エチオピアといえば陸上競技長距離種目で有名です。オリンピックも始まりましたが今大会でアベベの後輩たちはどのような活躍を見せますか。

まぐろ屋の大貫さんはビトゥンの若者たちの小銭を巻き上げる算段をしているようですが、なかなか思うようにいきません。どなたか、いい知恵(悪知恵?)がありましたら大貫さんにおしえてください。

長崎さんはマーシャル諸島マジュロ島までの道中記(らしきもの)を書いてみました。メドとマジュロの経度差(約45度)だけでなく、名古屋経由であったために緯度の差(=温度差)が大きく少し疲れしました。ビトゥンにもどって3日間は脱力状態でした。(年のせいでもあります。)

駐在官事務所からの御連絡が届いていない方もいると思いますので連絡事項を掲載しました。本当に医療環境がよくない場所にいますので、健康については気をつけましょう。10月の巡回医師団による健康相談をうまく利用してください。

表紙はいつものとおり羽根井さん。8月17日の独立記念日にちなんで独立記念塔とディポネゴロ王子像です。インドネシア万歳! 羽根井さん、ありがとうございます。

蛇足ですが、最近日本では蒲焼用のウナギが不足して高騰、タコ焼きのタコも不足気味ようです。ウナギ(稚魚)もタコも北スラウェシで獲れます。北スラウェシのウナギは日本ウナギとは別種だそうです、タレさえうまく作れば味はそれほど変わらないと思います。ウナギの蒲焼とたこ焼きをビトゥン名物に仕立てて売り出せば、大貫さんのまぐろ商売の儲けを巻き上げることができるのではなからうか。

(長崎)

会員名簿

会報「タルシウス」電子版では不特定多数の方が閲覧するため、セキュリティ上の観点より会員名簿は非公開とすることとしました。

(2014 年 04 月 20 日)

上記理由により会員名簿が非公開になりましたことをご了承ください。

●会報タルシウス（製本版）には従来通り名簿は掲載されます。

●各会員に対しましての個別の、または、尋ね人などのお問い合わせは、

直接日本人会へお問い合わせください。

該当会員に連絡後、会員より直接連絡するか該当会員の同意のもとで、

連絡先をお知らせすることといたします。